

新生匠瑳戦略会議（第1回里山・檀林部会） 会議録

開催日時：平成24年8月28日（火）

午後7時00分～9時00分

開催場所：匠瑳市役所議会棟第3委員会室

出席委員：（学識経験者）渡辺新

（団体推薦者）萱森孝雄

（一般公募者）永野亮太、林暁男、八木幸市

（5人／名簿順）

欠席委員：（団体推薦者）宇野充紘

（1人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）小川課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

[事務局]

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日は、新生匠瑳戦略会議の里山・檀林部会の第1回目ということでよろしくお願ひします。初めに、部会長でありますA委員からごあいさつをお願いします。

2 あいさつ

[部会長]

部会長という名ばかりにならないよう、頑張りたいと思いますのでよろしくお願ひします。どちらかといいますと、皆さんの方が知識も経験も豊富だと思いますので、お力を借りながら進めていければと思います。まず、部会の設置についてですが、資料にもあるとおり、中間報告に示すしくみや考え方を基に、最終報告に向けてより具体性を持たせた政策提言を行うために設置されました。会期は10月までということで、その間、何回集まって会議ができるかわかりませんが、なるべく具体的な提案ができるように進めていければと思います。あいさつは以上です。

[事務局]

ありがとうございました。本日の資料ですが、部会の設置については、先ほどの部

会長から御説明いただいたところですが、2枚目、3枚目については、部会長、B委員に作成していただいた資料です。それでは、部会長に議長をお願いし、議事を進めていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

3 議 事

(1) 里山・檀林の問題点の整理と方向性について

[議長]

事前にお配りした資料を基に議事を進めます。一番問題になってくるのは、里山・檀林をどのようにしたいのかということだと思います。C委員からよく「本当に困っているのか」ということを言われますが、どうしたいのかが決まってくればスムーズに話が進んでくるのだと思います。最後に自分ごととしてできること、行いたいこと、ここがまた難しい部分なので、そこに時間を使いたいと思います。そこで、この会議ではせっかく職域の異なる人が集まっていますから、それぞれの立場から見た飯高檀林について、意見を伺いたいと思います。ルールとして、人の意見を否定せず、どんどん前向きに意見を出していくこととし、会議の流れを止めないようにしたいと思います。まず、課題、意見ということで、皆さんが考えていることを発表してください。D委員からお願いします。

[D委員]

里山がなぜ必要かということをお話しなければならぬと思いますが、私もこの夏、世界自然遺産を2ヶ所見てきました。知床と小笠原です。

知床では、現地に向かう大きな道路の両脇にお土産屋さんがあったようですが、両方とも閉店していました。なぜかと考えていたのですが、世界遺産に登録されて人は入ってきているのですが、通過するだけでお店に寄ってお土産を買う人がいなくなってしまうようです。バスの移動ですので、トイレ休憩をとらなければいけないわけですが、その際にお土産屋さんには寄るのではなく、実際には道の駅などのバスの入りやすい施設を使っているのに、当初の目論見がみごとに崩れ去っている現状に驚きました。

小笠原の方は、利用客が多くなっているようで、船の乗車人員を減らすように調整しているそうです。なぜなら、大手の旅行会社に切符を全て売ってしまうため、地元の人も切符を買えないほど困っているからです。仕事で小笠原に行こうと思っても船に乗れず、現地の民宿の利用もなくなってお金も落ちなくなっているそうです。

世界遺産に登録されることで、それをうまくPRすれば見に来る人はいっぱいいます。現在、里山は見直されていますよね。なぜなら、里山が生物多様性にとって非常に良い環境にあるからです。では、匝瑳市の里山はどうかというと、生物多様性や里山の見直しなどと言われてはいますが、あまり注目されることはありません。やはり、世界遺産のようなきっかけがないと、見直されないのかと思いました。B委員の資料にも書いてあるとおり、匝瑳市の里山の良いところやPRできる場所は何なのかと考えたとき、飯高檀林やそこにいる生き物を絡めたりすることで、認知されていくのだと思いました。今ある里山の良いところを見つめ直して、それをうまく活用できる方法が見つかればと思っています。

[議長]

里山・檀林に価値を持たせたいということですね。E委員いかがですか。

[E委員]

地元に住んでいる人の視点に立つとまた変わってくると思います。地元の人にとっては、どうやったら収入が得られるかという視点が中心になってきます。里山を整備しても、木材の価値が徐々になくなってきていますから、山そのものがなくなってきたわけですね。私も林業組合に加入していますが、荒れていく一方だという議論ばかりで、飯高檀林はいいとしてもその周辺になると個人が所有しているものから、なかなか自由にはいきません。ただ一つ言えることは、里山は将来有望であるというような夢があれば、自然と動きは出てきます。負担ばかりで得する部分が見えないと、どうにもならないと思います。これからは、里山より田畑の方が重荷になってくるのではないのでしょうか。現在は、田畑が荒れる前に森林に戻そうということを考えていますが、農地の問題があり農業委員会の許可がないと実際にはできません。環境のことを考えれば、健全な森林を作ろうということです。

[A議長]

事務局の方はいかがですか。

[事務局]

初めて飯高檀林に行ったときには、人があまりいないということを感じました。同時に、人がいないがゆえにその静けさに神秘性を感じることもありました。最近、市でも前面に押し出してPRしていますので、訪れる人が徐々に増えてきている印象は受けますが、飯高檀林が持つ神秘的な魅力は人が少ないからこそ感じる部分もありますので、最終的な目標をしっかりとイメージして、どうPRしていくのかを考えておく必要はあると思います。

[事務局]

里山が見直されているということですが、全国どこにでもあるものなので、それだけでは魅力を感じないと思います。里山と一緒に何かを抱き合わせて、例えば、飯高檀林のように他にはなく、匝瑳市にしかないものと里山を絡めていかないと他との差別化ができないので、人が来てくれるという状態にはならないと思います。先日行われた商店街復権部会では、商店街の人たちは現在の状況についてどう思っているのか、そんな話題がけっこう出ていました。先ほどE委員から「得する部分が見えてくれば」というお話がありましたが、地元の人たちは里山や檀林を実際にどうしたいと思っているのでしょうか。

[E委員]

地元で考えていることはシンプルなことです。これまでも飯高で生活が成り立ってきたわけですから、これからも生活が成り立ち、次の世代が引き継げるようなものがあれば問題ないわけですから、そういうふうにしたいと思っています。

[事務局]

そういう漠然としたものではなく、具体的にこうしたいという考えはないのでしょうか。

[E委員]

飯高檀林である程度の集客が見込めて、ある程度そこで何かしらの販売ができて、生活の目途が立てば一番いいのだと思います。しかし、それは非常に難しい話なので、誰も手も足も出ず、ただ見ているだけの状態になってしまっています。気持ちとしては成田山のようになってほしいと思っていますが、そうなれる要素が飯高檀林にはありません。逆に、飯高檀林は元々学問所なので、そうならない方が良いという意見もあります。中途半端な神社仏閣を抱えているところは、その近隣がみんな貧乏になっていきます。本当に一流の神社仏閣の近くにいる人は、そこにお客さんがたくさん来てくれて、そこで地元にお金が落ちるので生活が成り立っているわけです。現在の檀林は勤労奉仕で成り立っていて、かつては薪が報酬となったわけですが、いまは何もありません。

[事務局]

飯高檀林に来た人はみんな「すごいね」と言ってくれますよね。

[E委員]

それは、偶然にもあの巨木が残ってくれたからだと思います。

[議長]

それは檀林にとって強みになる部分だと思います。地元の人がそう思っていることが重要で、逆にそれがないと前には進めないと思います。

[E委員]

飯高に住んでいる半分ぐらいの人は、飯高檀林のおかげでそこに根を下ろしたわけです。出城だったころは何人住んでいたかわかりませんから、やはり檀林のおかげだと地元の方は考えていると思います。

[事務局]

勤労奉仕の話もありましたが、やはり地元の方は飯高檀林が好きなんだと思います。嫌いであれば勤労奉仕すらやらないと思います。

[E委員]

元々お寺の世界は奉仕の世界です。お寺の檀家になっていけば、好き嫌いの問題ではなく、そういうものだ先祖代々教えられてくるものですから、何をやっても私たちは抵抗がありません。学校の勤労奉仕も同じようなものだと思いますが、周辺住民にとってお寺とはそういうものなのです。

[事務局]

「おらが学校」という考え方と同じで、飯高檀林も好きだし誇りに思っているので、いろいろなことができるのだと思います。

[E委員]

好きでなければ、本当にどうでもいい話だと思います。

[事務局]

好きとか誇りに思うとか、そういう気持ちが原動力や出発点になるのだと思います。私の意見は以上です。

[議長]

委員長いかがですか。

[委員長]

商店街と一緒に、地元の人にどうしたいのかを聞いても難しいと思います。E委員の話が非常に重要な意味を持っていて、里山というのは生活の場であり、生産の場でもあります。山だけではなく、集落があって農地があって、その景観全てを里山と言うべきであって、生活の変化により里山は実際に荒れてきてしまっているのです。人が住んで社会を作っているわけですから、その社会の編成替えまでいかない難しい問題だと思います。例えば、生物多様性や自然保護の視点だけでは、地元の方は動かないと思います。本日の資料に示されている、「里山・檀林をどのようにしたいか、強みとは、弱みとは…」という議論はこれまで散々やってきたわけですが、このままいくと、ミニ戦略会議になりかねません。そこで、前回の会議で委員長自ら反旗を翻してしまいましたが、「自分ごと」「市民協働」などの考え方は、中間報告までで十分

だと思います。それを前提に進めていけばいいことであって、それらは意識の問題で、匝瑳市には欠けていたものだったので非常に斬新で重要なことではありますが、中間報告に全てを当てはめて考えていくのはまずいと思います。自分ごとと市民協働で病院は建ちません。里山についても同様で、まず農業や集落などを含めた大きなフレームワークを作っていくべきで、実際にそれをどうしていくかは地元の人が考えるべきことだと思います。この間、いろいろ調査も行っていました。林業組合のF組合長の話では、水田に山の水を引いて米を作っているところがあるそうですが、単に谷津田米として、ふれあいパークで売っているだけだということです。まったく新しいものではなくても、既存のものをもっと上手にアピールするとか、バイオマスをやっている人と無農薬栽培、畜産農家を何かしらでつなげたりとか、こういうことが実現できればひょっとしたら堆肥センターなどもできるかもしれません。こういう人たちに集まってもらったときに、ワークショップなどの手段が有効になるわけで、市民協働とワークショップだけでは市全体の構想はできません。昨日の会議で、G委員が大型店へ買い物に行ったらトウモロコシを売っている近所の生産者の方に出会ったという話をしていましたが、こういうことを地元商店街でやればいいのだと思います。生産から流通、加工まで含めたかたちで地域内に循環するような農業のあり方を考えてあげて、そのフレームワークを提案することが戦略会議の役割だと私は思っています。そこで、前回の会議で私なりの意見を述べたわけです。

[議長]

戦略会議で議論するのではなく、当事者同士で集まって話し合うべきだということでしょうか。

[委員長]

そういう話し合いの場を設けたり、生活ができるしくみを考えて提示することが戦略会議の役割だと思います。

[議長]

そこまでもっていくための整理をして提案できればいいのだと思いますが、この場だけで話し合っても難しいというのはわかっていますが。

[委員長]

この場で問題提起まで行って、それを戦略会議（全体会）に報告してもいいと思います。ただ、全体会で修正される可能性はありますが。昨日の商店街復権部会でもいろいろ意見は出ましたが、「これがいい、あれがいい」で終わってしまった感があります。

[議長]

当然ながら、やりたいことは人それぞれ異なると思います。そういう中で、戦略会議として何が重要なのか、どういうものを提案したらいいのかをしっかりと考えなければなりません。

[委員長]

H委員が言われるワークショップについては、戦略会議で実際にやってきていることです。戦略会議での意見はすでに出尽くしていると思いますが、ちょっと外に目を向けると、戦略会議の視点とは少し違った考え方が出てきています。市内で先進的に取り組んでいる人たちを見つけ出すことも必要ではないでしょうか。人を集めてワークショップをやったとしても、出てくる意見はそんなに変わらないと思います。やはり無から有は生じません。NPOのIさんは、都会から里山地域に入ってきたわけですが、実は無農薬栽培を行っているJさんのところで農業研修を受けていたということで、ここでまたつながりが出てくるわけです。Jさんはすでに30年以上、海外からの研修生を受け入れています。実際には労働力かもしれませんが、九十九里ファームも中国からの研修生などをけっこう受け入れていますよね。

[E委員]

中国からの研修生は、私の知っている農家ではみんな受け入れています。名目は研修ですが、要は労働力です。

[委員長]

九十九里ファームでは何千羽という鶏を飼っていますが、愛知県などに比べると規模が全く違うそうです。

[E委員]

飯高にきた話では鶏が300万羽ということですから、そういうものが来たら大変なことです。なぜそういう話が飯高によくくるのかと調べていたら、実は栗源に卵の工場があるということが判明し、場所的に近いのでこういう話が舞い込んでくるようです。

[委員長]

里山のことを考えるということは、E委員の生活を考えることと同じです。生物多様性や自然保護に対して個人的に興味はありますが、そこを考えるよりは何らかの特産品を考えるなど、生産や生活に結びついていかないと地元の人との共感は得られないと思います。ただ、地元の人には生産のことで手一杯だと思いますので、先ほどのD委員の提案を地元の人に啓発していくことは必要だと思います。私の意見は以上です。

[E委員]

地元の人にはそういうことを意識せずに生活していますから、私もD委員の報告を聞

いて、初めてトウキョウサンショウウオなどの存在を知りました。私もこれをきっかけに、「こういう生物が住める場所というのはそんなに悪いところではないのだ」と思い直しましたので、そういうことを知っていれば「大事にしよう」という気持ちが芽生えてくると思います。また、飯高檀林にもっと人が来るようになって外の目が入るようになれば、自然と周りから動き始めて「もっときれいにしなくては」という方向に向かっていくかもしれません。そういう気持ちで、檀林に桜を植えようとしたりいろいろ考えてはいますが、協力者は何人もいません。

[議長]

外で実際に活動している人たちに、生活を安定させられるような智恵、技術を里山へ持ってきてもらうということでしょうか。

[委員長]

それも重要なことだと思います。最終報告のテーマにもなると思いますが、そこで生活している人たちがずっと住み続けられる、持続可能な地域づくりが必要になってくると思います。そのためには、地域内の循環や外からの交流も含めて、匝瑳市域のネットワークを作っていかなければなりません。

[委員]

お金のことばかり言うのも変ですが、水田は10アールあたり4,400円の助成金が国からもらえます。用水路、排水路、共同管の管理等の資源保全にかかる費用弁償がもらえるおかげで、休耕田に菜の花やコスモスを咲かせることができます。雑草が生い茂っている休耕田が花畑に変わるわけですから、そういうきっかけがあると多少変化は出てくると思います。

[委員長]

休耕田の利用も重要なことです。さらに、所有者の収入につながるようなものが必要です。

[E委員]

里山に、そういうものが生まれる可能性はありますよね。先ほどの林業組合の話ではありませんが、例えば、山を整備して10アールあたり1万円という助成金では、微々たるものでしかありません。水田に関わると多少のものが得られますが、同様に山でも得られるものがあれば田舎の魅力につながると思います。維持・管理等の全ての負担が自分にのしかかってきてしまうと、サラリーマンになった方がいいという方向に向かってしまうのです。

[委員長]

例えば里山を利用するとき、一番扱いに困っているのは竹だと思います。その困

り物である竹を利用して、収入が得られるようなものがないでしょうか。これこそ、中間報告で示した価値の転換だと思います。

[B委員]

竹炭を作ったりしているところはありますよね。

[D委員]

林業組合でやっています。

[委員長]

林業組合長が言っていました、作った炭を家畜の餌に混ぜると肉質が良くなるという話をしていました。

[E委員]

それは面白い話ですね。粉にして畑にまいても防虫効果や水質浄化など、メリットもけっこうあるみたいですね。ただ、林業組合が炭を作ったとしても、販売先がないので売ることができないと思います。

[委員長]

流通まで含めた販路を考える必要はあります。通常、農業をやっている人は生産現場が中心ですが、現在は流通や加工まで手がけるようになってきています。ふれあいパークがうまくいっている一つの要因は、ここにあると思います。逆に、食品企業も生産現場まで進出してくれているので、どこかで接点があるのではないかと思います。

[E委員]

生産者を追い求めて、企業が近隣の多古町まで来ています。

[委員長]

野栄地区でもモスバーガーと契約してピーマンを栽培している人がいます。

[議長]

資源はいろいろあるのに、ネットワークがないために活かしきれないのが現状だと思います。人と人がつながるネットワークを作ることが大事で、そのために「私たちができることは？」と、市民に考えさせることができればいいのではないのでしょうか。

[委員長]

前回の会議でも議論しましたが、そういうネットワークをつくる時に、例えば農業と里山の関係や流通のしくみなど、現状を把握していないとネットワークは作れませんよね。前回言いたかったことはそういうことだったのです。

[B委員]

皆さんの意見を聞けば聞くほど難しいと感じます。飯高檀林も里山も、そのままの

状態で稼働するようなしくみを作らないといけません。それがビジネスチャンスにつながる重要なファクターだと思います。もう一つは、もし里山を世界遺産級の自然遺産としてとらえるとしたら、魅力がなさ過ぎると思います。せいぜい文化遺産だと思いますので、人が絡むという部分を有効に活用していく方がいいと思います。市で、市内において個人的に活動している人の情報を集めて情報発信し、そこに集まってきた人たちのネットワークを作るといえるのはいかがでしょうか。まず、たくさん使うということが重要で、飯高檀林も年1～2回のレベルではなく、毎日使っていくことによって人との距離間も縮まるし、管理もしやすくなると思います。ただ「行ってみる」というレベルから脱皮することが必要です。

[委員長]

先日、林業組合長が「教育の森」について話をしていたのですが、そういう森が市内にあるのでしょうか。豊和地区にそういう森があると聞いたのですが。

[D委員]

アルカディアの会が借りているところかもしれません。

[委員長]

先ほどは、生活・産業の視点で話をしましたが、D委員から報告のあった生物多様性や教育活動の視点も一つの利用方法だと思います。そういうことを考えるときに、実際に里山に集まって中間報告で示したワークショップなどを行えばいいのです。

[D委員]

生活の話がありましたが、里山特区やエコ特区などで特区申請し、補助金でそこに住んでいる全家庭に太陽光発電をつけてもらったり、里山を整備して作った竹炭の利用先を確保するために、薪ストーブを設置してみたりするのも面白いと思います。また、余った枝でバイオマスを使って堆肥として田畑に利用したり、そういう田んぼをオーナー制にして市外ではなく市内の人に利用してもらえば、地元でつながりができて生活も成り立つので、域内循環の可能性が広がると思います。

[E委員]

農業体験や里山体験はすぐにできるし、収入にもつながるのではないかと考えています。体験にも、生産から学びたいという人と、収穫だけやりたいという人の二通りの人がいます。地元の人にとっては、なるべく手をかけずにお金になればいいと思っていますので、ミョウガやフキの収穫や檀林・巨木の案内などで商売になれば、ということ考えたことはあります。

[委員長]

ちなみに、市内でヤマユリが咲いているという話を聞いたのですが。

[E委員]

山の手入れをすると、ヤマユリが咲いたりワラビも採れるようになります。ふれあいパークで体験事業もやっていますが、募集をかけると20～30人ぐらいは集まっているそうです。

[委員長]

すでにふれあいパークでそういう事業を行っているのですから、もう少し発展させてもいいと思います。

[議長]

少し色を変えてやらないと、同じものが二つできてしまうことになります。

[委員長]

同じものを作るわけではなく、もっと大きな枠組みで位置づけるのです。

[E委員]

ふれあいパークの考え方は全く違っていて、実は体験事業をやりたくないのです。ふれあいパークが考えていることは、人は自分たちで集めるので、事業の実施を委託して、帰りはふれあいパークでお土産を買ってもらって収益につなげようということです。現在、里山ハイキングなどを飯高檀林コンサートの開催日に合わせて実施することで、150人ぐらいの人を集めていますから、ふれあいパークには人を集める能力があります。そこで、参加者を楽しませて体験事業をやってくれる農家の受け皿を探しているわけです。

[委員長]

それは実現可能だと思います。

[E委員]

私もいけると思っていて、その拠点に旧飯高小学校を考えていたのですが、残念ながら実現できませんでした。炭焼きもできるし、宿泊施設として使えたらと思っていたのですが。

[委員長]

個々の活動はいろいろやっていますよね。これを組織化しようとしたら失敗しますので、緩やかな連携ができればというイメージだと思います。

[議長]

これを強みにすることはできないでしょうか。キッズニアのように専門分野の人を集めて山でいろいろな体験をさせると同時に里山の整備もしてもらえるので、相乗効果が図れると思います。

[E委員]

一家が移住してきて、お父さんのやりたいこと、お母さんのやりたいこと、子どものやりたいこと、それぞれに対応できる体制を整えることで、ディズニーランドレベルのしかけができないかとずっと考えていました。

[委員長]

E委員はいろいろ考えていると思いますが、一人で考えてもなかなか前には進みません。旧野栄町の頃に「野栄いきいき農業塾」という組織があり、その一つの成果がチューリップ祭りです。農業塾の発案で、のさか望洋荘の近くで地ビールの工場を造ろうという計画がありましたが、事業化までには至りませんでした。これを匝瑳市域レベルで法人化し、E委員の提案などを検討していくと実際に動きが出てくると思います。NPOや法人化をするときに、市民と行政による市民協働で行えばいいのです。

[E委員]

市産業振興課が言っている「都市と農村総合交流ターミナル」という位置づけをもっと大きく考えて、組織化などを積極的にやってくれば動きは出てくると思います。

[委員長]

以前、K委員が言っていた和郷園は、かなり組織化・システム化されています。

[E委員]

和郷園は自分でものを作るというより、集めたものを売るというスタイルです。成長したきっかけは、ゴボウをカットしてきんぴらにするやり方と、ヤマトイモの冷凍保存ができる真空パックの開発です。

[委員長]

アイデア次第でいろいろ考えられますよね。特に、里山地域の中に飯高檀林があるのは非常に魅力的だと思います。

[E委員]

飯高檀林コンサートに参加した人で、「ここでコンサートを開催したら、まず失敗することはないよね」と言っていた人がいました。また、その景観を見て、「ここでつまらない音楽を聞いても腹を立てる人はいない」と、理解してくれる人がいたことは非常にうれしいことです。

[委員長]

B委員が作成してくれたレジュメに、飯高檀林で和太鼓の練習をやってみてはという提案がありますよね。

[B委員]

和太鼓をやっている人たちの中には、日本の宗教を背景とした精神があります。そういう視点で考えると、音が迷惑にもならないし、非常にマッチする部分があると思

います。24時間オープンに使えて、トイレなどの設備も整備されていればいいのですが。

[委員長]

飯高檀林の周辺には集落がありますよね。夜中に太鼓の音を出しても平気でしょうか。

[E委員]

史跡ですから、まず貸してもらえないと思います。かつては飯高檀林という教育の場でしたが、現在は飯高寺というお寺が存在します。東京都練馬区に住職がいますので、簡単には貸してくれません。

[議長]

飯高檀林コンサートを開催するときには、許可をとって行っているのですか。

[E委員]

毎年、書類で借用申請をしています。ただ、国の重要文化財ですから、何でも貸してもらえるということではありません。

[B委員]

建物は文化財でも、敷地は関係ありませんよね。

[E委員]

建物（講堂、鼓楼、鐘楼、総門）は国の重要文化財で、境内全体は県の史跡に指定されています。周辺住民で組織する「飯高檀林跡を守る会」もありますから、自由にさせろと言ったら抵抗はあると思います。案外、使いやすいようで使いづらい場所でもあります。

[B委員]

背景に宗教があり、そこから教育が生まれてきた歴史があるわけですから、それにこだわったやり方をした方がいいと思います。

[E委員]

宗教が絡むと市役所は応援しにくくなると思いますが。

[B委員]

宗教心の問題もあるかもしれませんが、ビジネスファクターとしては悪くないと思います。

[議長]

いろいろな話が出てきていますが、私が思ったことは、飯高檀林に本当に人が来てもらいたいのか、地元の人はどうなふうに考えているのか、これらは外部から来た人にはなかなかわかりません。また、現場に行ってみないと魅力が伝わらないというこ

ともありますので、何らかの新しい価値を持たせたいということが一つ。もう一つは他の地域との差別化で、森を守りながら外部の人と協力し、体験型事業の拠点という方向性も考えられると思います。

[委員長]

人がたくさん来てほしいというのは、観光地で来る人のイメージではなく、先ほどD委員が言っていた散策に来るような人のイメージだと思います。

[D委員]

単に観光で来て素通りするのではなく、地元の人と関わって農業やものづくり体験をするような、そういうイメージだと思います。

[E委員]

後は農家の民泊で、これが軌道に乗ればうまくいく可能性はあります。

[B委員]

先ほどD委員が言っていたことは、大きくとらえれば観光だと私は思います。ただ、見るという従来型の観光ではなく、最近人気のある体験型の観光という新しいスタイルだと思います。民泊のことが出ましたが、イタリアで成功している事例を見に行ったことがあります。国が補助金を出して進めているアグリツーリズムの一環ですが、個人の旅行客が農家に宿泊することができ、その宿泊設備は補助金で融資を受けることができます。オリーブ、ブドウ、養豚農家など、非常にのどかで素晴らしい環境の中でいろいろな体験もできます。一泊ではなく、一週間ずっと宿泊し続けるような滞在型も多いそうです。

[E委員]

現在、民泊を考えているというのは、地元の一部で空き家できてしまっているからです。後継者はいるのですが、遠くに住んでいるため、普段は空き家状態になってしまっています。生活している人の家を活用するのは困難なので、空き家を無償で提供してもらって、それをうまく活用して事業を起こせないものかと考えているところです。

[B委員]

無償というよりも、経費をかけて最低限の快適性を確保しなければ、長続きはしないと思います。

[委員長]

B委員が言いたいことは、日本の場合、グリーンツーリズムとかアグリツーリズムで事業展開していくと単なる観光農園になってしまうので、そうではなく、もっと体系的に推進していかなければうまくいかないということだと思います。

[E委員]

私が考えていることは、先ほどB委員が言っていたような薪で風呂を沸かしたり、釜戸でご飯を炊いたりする、そういう生活を体験させることです。ご飯が勝手に出てくるようでは面白くありません。その点は、農家を一軒まるごと借りることで、うまくできるのではないかと考えています。

[議長]

E委員のアイデアが全部実現できたら、とても良い物ができるような気がします。

[委員長]

E委員のアイデアはかなり具体的で、実現性があると思います。それがなぜ実現しないのかというと、事業化していく組織がないからです。そこで、市民と行政のパートナーシップで法人化した組織を作ればいいのです。

[E委員]

個人でいくら叫んでもどうにもなりません。ある程度行政に関わってもらいと、それを利用する人も安心することができます。もちろん、具体的な作業は市民がやるにしても、最初の窓口は行政が関わってくれた方がいいと思います。

[議長]

徐々に答えが出てきている気がします。まとめると、自分ごととしてやりたいことを進めていくために法人化などで活動を支援する組織を作ること、外部の力を呼び込むしくみを作ること、この二つが必要ということでしょうか。

[委員長]

法人化が良いかどうかわかりませんが、一つの選択肢にはなると思います。

[D委員]

昔、飯高にホテルを見に行った時に、電灯などの明かりが何も見えないところがありました。そこでは、星が非常にきれいに見えました。

[E委員]

飯高には里山百選に選ばれた場所があって、NHKが撮影に来ていました。

[委員長]

普段、都市部で生活していると星をじっくり見ている余裕がない生活をしています。が、匝瑳市に帰って空を見上げると、やはりきれいな星が見えるとしみじみ感じます。

[議長]

これらが実現すると、課題は大体クリアできそうな気がします。先ほど法人化という意見がありましたが、それ以外の選択肢も考えてみたいと思います。

[D委員]

B委員が作成してくれたレジュメに書いてある朝の健康体操ですが、それを飯高檀林の講堂前でやってくれたら、飯高檀林のPRにもつながると思います。

[E委員]

自分の家が茅葺き屋根なので、その宣伝になるからやっているのであって、飯高檀林でやろうとは考えていないと思います。

[委員長]

B委員の資料にある松山庭園美術館には、どのくらいの人が来ていますか。市外の人が多いのでしょうか。

[B委員]

東京から来ている人もいるそうです。

[委員長]

私が入館したときには、初夢漬が出てきました。

[B委員]

美術館というのは文化の発信ですから、そういう意味では文化が発信できるポイントをつないだ方が、ボリュームが出てきます。

[議長]

健康、教育、文化を刺激する体験事業の拠点のようなイメージで地域を組み立てていく、そういうイメージでしょうか。

[E委員]

地元の間人からすると、飯高檀林は教育の場なので、農業にしても里山にしても、飯高檀林で学んでいくという姿勢を通して、魅力を作っていく方がいいと思います。

[議長]

コンセプトをもってやったときに、そこで新たにやりたいという人が出てくると思いますが、そういう人をしっかり受け入れられるしくみが必要になってくると思いますが。そのしくみを、誰が、どのように作っていくか、これが一つの課題だと思います。

[委員長]

E委員の会が中心になるしかないと思います。例えば、行政側から立正大学へ文化財の発掘などを頼んでみるのもいいと思いますが。

[E委員]

先日、立正大学へ行き学長に会ってきましたが、要望があれば講師として派遣してくれるという話は聞いています。

[委員長]

現在、大学側は自治体や企業と積極的にやりたがっています。講師を呼ぶときには学長でかまいませんが、連携となると経営者である理事長の方が話がスムーズです。大学で思い出しましたが、敬愛大学と千葉経済大学の創設者は、両者とも匝瑳市出身です。

[議長]

追い風となる外部の要因をどのように取り込んでいくか、自分たちが今後どうしていくのか、ここが決まれば展開は早い気がします。それこそ、外部の専門家などに、E委員の会がうまく機能するようにコンサルティングしてもらった方がいいのかもしれない。

[E委員]

何か物事を行うときに、ほとんどの人は日曜日しか対応ができません。

[委員長]

活動を始めてから何年ぐらい経過していますか。

[E委員]

23年になります。

[委員長]

メンバーは減っていますか、それとも増えていますか。

[E委員]

人数はそんなに変わっていません。ただ、若い人は勤め人が多いので、土日中心の作業に参加するのは難しいです。年齢的には、私たちのような定年前後の年代が一番活動できる年代です。

[議長]

高齢者ビジネスではありませんが、定年退職後の仕事を生み出していくことは重要なことだと思います。

[E委員]

ふれあいパークの仕事は、そういう人たちに一番適している仕事だと思います。サラリーマンを辞めて、農業を開始した人たちが自分たちで食べる分としては量が多いので、余った分をふれあいパークで売ってみようとか、そういうところでまた生きがいを見つける人はいると思います。

[委員長]

ふれあいパークで働いている人は女性が多いのですか。

[E委員]

女性は多いです。

[委員長]

無農薬栽培をしているJさんは、女性が多い職場の方がいろいろ動きが活発だと言っていました。

[議長]

ちょっと調べてみたのですが、要介護にならない高齢者、つまり、病院や介護の世話にならない元気な高齢者というのは、全体の75%にあたるそうです。福祉（デイサービスなど）部門の高齢者ビジネスが注目をあびていますが、対象者は全体の25%に過ぎません。逆に、これからは75%を対象としたビジネスを考えた方がいいのではないかとこの考えもあります。

[E委員]

まだまだ仕事ができるという人はたくさんいて、その気があれば何でもできるし、健康にもつながるといふ好循環を生み出すのだと思います。

[委員長]

高齢化社会の課題は、もちろん医療や福祉にもありますが、一番の課題は、元気な高齢者が社会参加できるしくみをどう作っていくかだと思います。ただ、その高齢者の中に少しは若い人が入っていないと、やはりパワーが生まれないと思います。

[議長]

そろそろ時間もせまってきていますので、ここで議論は一旦終了し、次回の日程の確認をしたいと思います。次回の戦略会議は8月31日で、そこで部会として何か報告しなければならないのでしょうか。

(2) その他

[事務局]

日程のお話が出ましたので、事務連絡をさせていただきます。

まず、次回の戦略会議（全体会）については、部会の検討結果を報告することになっています。本日、まだ第1回目の部会が終了した段階で、検討結果が出ていませんので、8月31日の戦略会議は延期させていただきたいと思います。

2点目ですが、部会の日程について事前に部会長と相談させていただいた結果、部会員の日程を確認した上で決定することとなりました。ただし、日程調整する際に、部会という組織の性質上、部会員が全員で6人しかいませんので、この段階で例えば3人欠席ということになってしまいますと、部会の議論がうまくいかない可能性がありますので、少なくとも調整の段階では皆さんの都合の合う日で設定していただき

いと思います。

最後に3点目ですが、部会についても会議録の確認をお願いしたいと思っています。全体会については、委員長及び委員さん2人ずつに交代で確認をお願いしているところですが、部会についてはどのような方法がよろしいでしょうか。

以上、御協議の上、決定していただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

[議長]

日程についてはいかがでしょうか。次回の戦略会議はいつを予定していますか。

[委員長]

10月に開催できればと思っていますので、その会議で部会の検討結果が出るようにスケジュールを組んでいただきたいと思います。

[議長]

では9月の第2週目ぐらいで開催できればと思いますが、9月12日(水)はいかがですか。

[出席委員全員]

異議なし。

[事務局]

それでは、次回の部会の日程は、9月12日(水)19時からということで決定いたします。会場については、後日開催通知と一緒にお知らせいたします。会議録についてはいかがでしょうか。

[委員長]

全員に送って確認してもらってはいかがですか。

[出席委員全員]

異議なし。

[事務局]

それでは完成次第、皆さんにお送りいたしますので確認をお願いします。事務局からは以上です。

[議長]

それでは時間になりましたので、本日の会議はこれで終了となります。

[事務局]

ありがとうございました。

4 閉 会